■景観形成基準に対する措置状況説明書（建築物）【美観地域・美観地域重点地区】

■行為地

|  |  |
| --- | --- |
| １．地名地番 | 千代田区 |
| ２．景観特性（地理的特性及び街並みの特性）と配慮事項 | ※景観まちづくりガイドラインの界隈の歴史や適用状況を踏まえて記述すること。※周辺約200ｍ以内の配慮すべき歴史的建造物（景観まちづくり重要物件、区指定文化財等）や景観重要公共施設等との位置関係や配慮事項を記述すること。※地域のガイドライン（区のホームページ参照）、地区計画等の方針への対応を記述すること。※屋外広告物の計画の有無、設置する場合は広告物の景観への配慮事項を記述すること。※外観計画はもとより、配置・平面計画についての配慮事項を記述すること。 |

■景観まちづくりガイドラインの適用状況リスト

|  |
| --- |
| 界隈別・重点地区景観まちづくりガイドライン |
| □皇居界隈 | □皇居東御苑・北の丸公園　□皇居外苑　 |
| □大手町・丸の内・有楽町界隈 | □①丸の内・有楽町周辺　□②大手町・八重洲周辺　□③有楽町・日比谷周辺　□④東京駅駅前広場周辺□⑤日比谷通り・内堀通り沿いの濠瑞に面するエリア　□⑥常盤橋地区□⑦行幸通り　□⑧丸の内仲通り沿いとその延伸部　□⑨日本橋川重点地区 |
| □霞ヶ関・永田町界隈 | □①三宅坂の桜田濠沿い　□②主要道路沿い　□③城郭門（跡）周辺 |
| □千鳥ヶ淵界隈 | □①内濠沿い　□②半蔵門周辺及び麹町大通り（新宿通り）沿道□英国大使館周辺　□内堀通り沿い |
| □九段・竹橋界隈 | □①内濠沿い　□②日本橋川重点地区　□九段坂周辺 |

■目標別基準（１）

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 基準 |
| １　歴史を活かす | ■景観形成キーワード（該当するものにチェック） |
| □歴史の継承と創造　□眺めの映える場所　□人を育む場所　□心のより所□敷地の履歴　□年輪を重ねた樹　□敷地の記憶を継承　□見切りのデザイン　□壁の表情　□語りかける細部　□年輪を重ねる材料 |
| ◆皇居の周辺の建築物は、皇居を中心として緩やかなすりばち状のスカイラインとなるように工夫すること。 |
|  |
| ◆東京駅丸の内駅舎や国会議事堂等の周辺では、これらランドマークへ向かうヴィスタ景を保全する配置・規模となるよう工夫すること。 |
|  |
| ○景観資源の周辺では、その資源が引き立つような配置、高さ・規模、形態意匠、外構となるよう工夫すること。 |
|  |
| ○視点場から見える建築物等は、眺望景観の保全・創出の基本方針・配慮事項に適合するよう工夫すること。 |
|  |
| ２　自然を活かす | ■景観形成キーワード（該当するものにチェック） |
| □緑と水の環　□地形の継承　□つながる緑　□水辺のにぎわい　□水のある場所□開かれた緑　□季節を感じる草花　□見え隠れの庭　□窓辺の緑□屋上の庭 |
| ◆皇居のみどりや水辺などと連続したオープンスペースの確保や開放感が感じられるように工夫すること。 |
|  |

■目標別基準（２）

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 基準 |
| ３　界隈の個性を活かす | ■景観形成キーワード（該当するものにチェック） |
| □まちの多様性　□広場から広場　□路面のにぎわい　□路地を活かす　□歩行路のつながり□まちと共感する広告　□表と奥の表情　□見えない駐車場　□広場の設え□間口の分節・高さの分節　□目立たない設備　□建物を活かす広告　□馴染む色彩 |
| ◆大規模な街区で構成される風格がある景観となるように工夫すること。 |
|  |
| 〇地域別に定められたガイドライン等の内容も踏まえ、本計画と両方の基準に適合すること。 |
|  |
| ４　活気とやさしさを与える | ■景観形成キーワード（該当するものにチェック） |
| □大きな人の輪　□あかりをつなげる　□つなげるやさしさ　□祭りの場　□夜のにぎわい□向こう三軒両隣り　□子どもの笑い声　□人が集う場所　□小さな人だまり□居心地の良い場所　□座れる場所　□安心のあかり　□人の気配 |
| ◆オープンスペースや歩行者空間をつなげ、ゆとりある空間となるように工夫すること。 |
|  |
| ○サイン計画（工作物、広告物を含む）は界隈や街区の景観特性を踏まえ、歩行者、自動車の動線に配慮されたものとなるよう工夫すること。 |
|  |
| ５　首都としての美しさを創出する | ■景観形成キーワード（該当するものにチェック） |
| □都市の門　□通りの秩序　□目標となる建造物　□壁面の連なり□中心にふさわしい広場　□迎えの設え　□大きな構え　□柱の表情□品格ある光 |
| ◆低層部は、ゆとりやにぎわいが感じられるまち並みとなるように工夫すること。 |
|  |
| ◆旧江戸城の城郭御門などの主要な交差点は、心象空間やゲート空間となるように工夫すること。 |
|  |

■項目別基準（１）

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 基準 |
| 配置 | ○皇居や道路のみどり、内堀の水辺などと連続したオープンスペースの確保など、公共空間との関係に配慮した配置とすること。 |
|  |
| ○街並みのリズムを確保するため、建築物の壁面の位置や間口の尺度は通りや隣接地と協調させること。 |
|  |
| ○敷地内や周辺に歴史的な遺構や残すべき自然などがある場合は、これを活かした建築物の配置とすること。 |
|  |
| 高さ・規模 | ○周辺の主要な眺望点（道路、河川、公園など）からの見え方を検討し、周辺の建築物群で構成されるスカイラインと調和を図ること。 |
|  |
| 形態・意匠・色彩 | ○形態・意匠は建築物全体のバランスだけでなく、向こう三軒両隣の建築物等との調和を図ること。 |
|  |
| ○見合いなど建物と建物の関係に配慮し、開口部や設備等の位置や大きさに配慮すること。 |
|  |
| ○屋外階段は、通りなどの公共空間から見える位置には設置しないように配慮すること。やむを得ず設置する場合は、建築物等と一体的な意匠とするよう工夫すること。 |
|  |
| ○バルコニー、ベランダは、洗濯物や室外機が公共空間から見えにくい構造、意匠とするよう工夫すること。 |
|  |
| ○外観の色彩は、別表１及び２の基準に適合すること。※高さ60ｍ以上又は延べ面積３万㎡以上の建築物等については、景観まちづくり計画p62　別表3-2の色彩基準にも適合する必要がある。なお、東京都景観条例に基づく大規模建築物等の事前協議の対象となる場合、色彩の定量基準について東京都の基準があるため、整合を図ること。 |
|  |
| ○ガラスを用いる場合は、建築物の外観や周辺の街並み、緑や水辺等の自然要素との調和を図ること。 |
|  |
| ○建築物の屋上や外壁部、外構に附帯する設備は、建築物と一体的に計画するか、歩行者や水平方向からの見え方に配慮し、緑化や目隠しなどによる修景を行うこと。ただし、目隠しが周辺の建築物群の高さから突出した高さとならないよう配慮すること。 |
|  |
| ○駐車場・駐輪場（コミュニティサイクル用のサイクルポートを除く）は、通りなどの公共空間から見えない位置に配置したり、見えにくい構造、意匠とするよう工夫すること。 |
|  |

■項目別基準（２）

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 基準 |
| 公開空地・外構等 | ○外構計画は、周辺の敷地や道路、公園や水辺など、周辺の街並みと調和を図った色調や素材とすること。 |
|  |
| ○皇居の緑やオープンスペース、街路樹の緑などとのつながりを持った緑地や空地を確保したり、建築物の壁面や屋上、窓先等を活用して緑化を行うこと。 |
|  |
| ○緑化に当たっては、樹種の選定に配慮し、周辺の景観との調和を図るとともに、植物の良好な生育が確保できるよう工夫すること。 |
|  |
| ○敷地境界は、前面道路との段差をなくし、空地の仕上げは歩道と素材を協調させるなど、公共空間との連続性や一体的を確保すること。 |
|  |
| ◆夜間の景観に配慮し、周辺の景観に応じた照明を行うこと。特に、皇居周辺では、落ち着きや潤いに配慮し、魅力的な夜間景観の創出を図ること。 |
|  |

■別表１　色彩定性基準

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 基準 |
| 色彩 | ◆旧美観地区として守られてきた景観色彩を踏襲し、皇居の森と内濠を中心に、日比谷公園、行幸通りほか、四季を通して豊かに変化する自然物や歴史的建造物等の色を活かし、それらと互いになじむ落ち着いた暖色系の低彩度色を中心に用いること。 |
|  |
| ◆自然石など光の違いや経年変化により色の深みが増す質の高い建材･色材を用いること。 |
|  |
| ○壁面で用いる色数は過多にならないように配慮すること。 |
|  |
| ○建築物の高層部は広域的な影響を踏まえ、近隣のみならず遠方からの見えに配慮するとともに、鮮やかなアクセント色等を用いないこと。 |
|  |
| ○地域の特徴を踏まえ、建物単体の配色及び周辺建物との関係において、色彩の対比が強くならないよう配慮すること。 |
|  |
| ○歴史的建造物等や地域のシンボルとなる樹木など、景観資源に近接する場合は、それらの色彩との調和を図るとともに、景観資源の存在を引き立てる落ち着いた色彩や配色とすること。 |
|  |